

【校長室より】

令和3年6月
東京都立武蔵野北高等学校長

鵜飼敦之

「おはようございます」と声を掛けると、元気な返事を返してくれる人、マスク越しに笑顔を見せてくれる人、コクリと会釈して走り去る人などそれぞれ。今日も皆さんの登校の様子を見て、私も「よっし、今日も一日ガンバロー」という気分になる。

さて、学校は残念ながら、緊急事態宣言の再延長という事態を受け、分散登校を継続することとしました。中間考査を終え、体育祭でクラス・団の結束を図ろうと思っていたであろう皆さん、そして行事を盛り上げようと頑張ってきた実行委員にはとても申し訳ない気持ちです。学年ごとの実施とはいえ、『翔舞』をテーマに掲げ、今年できる最高の体育祭を目指す取組、そして伝統を引き継ごうとする工夫に、ムサキタ生の熱き思いを感じます。

一方、オンライン学習は、自分をどれだけ律して取り組めるかにかかっているといってもよいでしょう。デジタル社会の到来という状況の中、「学びに向かう力・学習の自己調整力」をいかに身に付けていくかが肝要です。

閑話休題。ムサキタに赴任して2か月がたちました。“あっという間”という感覚です。

過ぎ去る時間が早いと感じるか、遅いと感じるかは心で感じる時間の流れが現実よりも早いと時間がゆっくり流れているように感じ、逆に心の時間が現実の時間よりも遅いと時が立つのが早いと感じるのだそうです。子供のころは1年が長かったのに大人になったら凄く早く感じるようになるというのも大人になるにつれて代謝が落ちて行くことに関係しているそうです。

日々の生活で一番大きく変わったことは、通勤時間。片道90分あった時間は大幅に短縮され（体にはいいのですが）、本を広げている暇もない。図書館から借りた本の返却期間は迫るし、時間確保が頭痛のタネ。そのような中、最近読んだのは、2021年度の本屋大賞のノミネート作品「犬がいた季節」。著者の母校である県立高校を舞台に描かれた青春小説です。実際に高校で生活していた犬をモデルに、その視点を交えながら18歳の迷いや決断、友情や恋などを瑞々しく綴っています。高校生がどんなことに悩み、憧れを抱いているのかを知る機会となり、読み終え、私もはるか昔の高校時代を思い出しました。



皆さんは本を読んでいますか？なんと昨年度のムサキタ生の不読率は72.4%だそう。コロナなどの影響もあるようですが…図書館からは新刊到着の「図書館だより」が発行されました。国語科の先生方からも読書は語彙力・基礎知識・基礎概念を充実させ、国語の総合力も身に付けられるとの話を聞きました。読書課題『明日への知』に取組みましょう。

まもなく、梅雨の季節がやってきます。体調の管理に十分気を付けて過ごしてください。



【本校 校門脇のアジサイ】